

銀河レポート401

No. 57
2月号

発行日：令和2年2月1日
編集&発行：四日市市立博物館 天文係
電話：059-355-2700
HP：<https://www.city.yokkaichi.mie.jp/museum/museum.html>

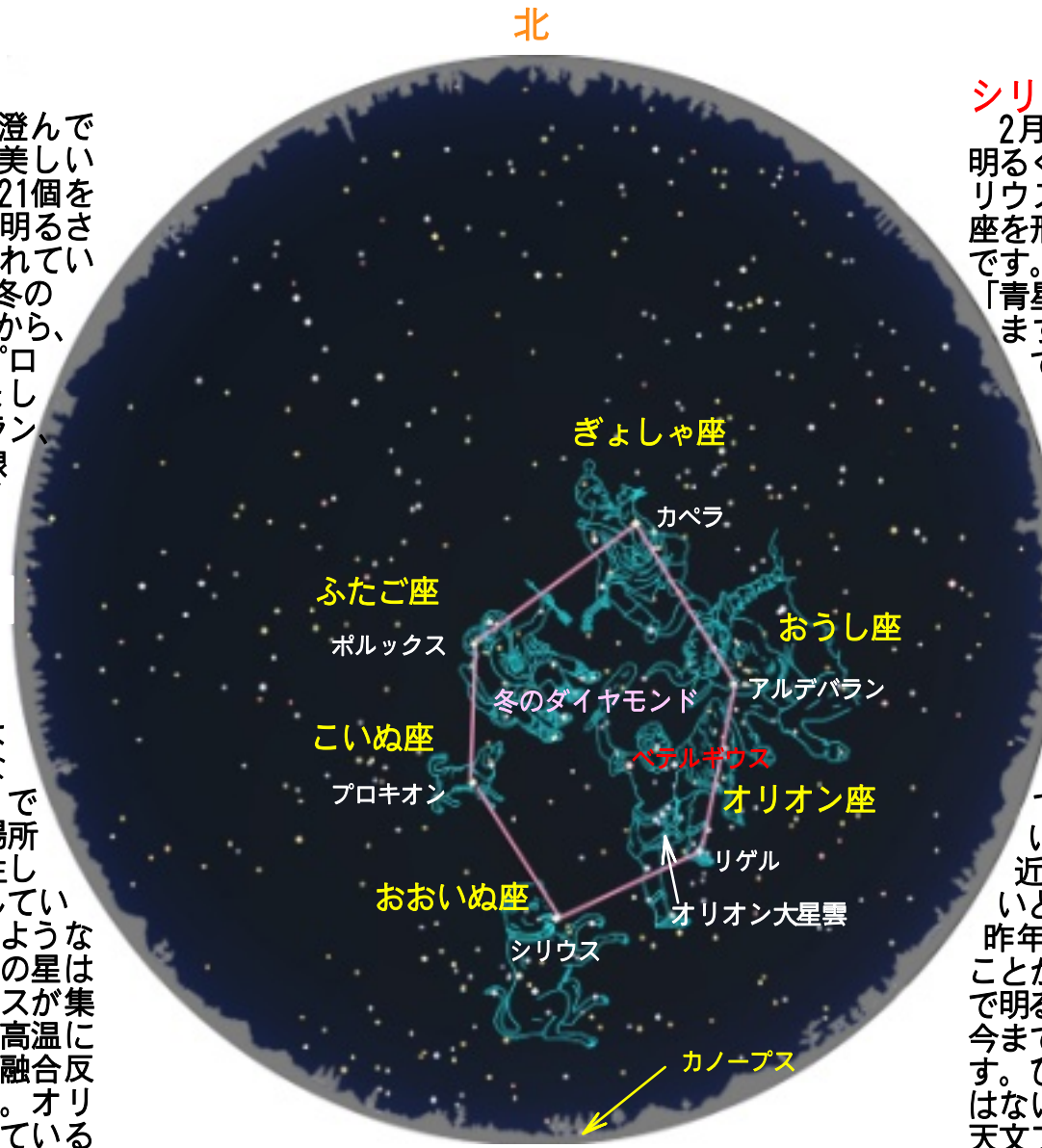
2月の星空

冬のダイヤモンド

冬の星空は明るい星が多く空気が澄んでいることもあって、他の季節よりも美しいといわれます。夜空の特に明るい星21個を「1等星」、肉眼で見えるぎりぎりの明るさの星を「6等星」として等級が決められています。全天で21個ある1等星のうち、冬の星座の中には8個もあります。その中から、おおいぬ座のシリウス、こいぬ座のプロキオン、ふたご座のポルックス、ぎょしゃ座のカペラ、おうし座のアルデバラン、オリオン座のリゲルの6個の1等星を線でつないだ大きな六角形が「冬のダイヤモンド」です。

オリオン大星雲

オリオン座の中央部分にある「三つ星」の下方に縦に星が三つ並ぶ「小(こ)三つ星」が見られます。この小三つ星の真ん中あたりをよく見ると、ぼんやりとした雲のようなものが見えます。「オリオン大星雲」です。ここは水素ガスが集まっている場所で、「トラペジウム」と呼ばれる誕生して間もない星が、周りのガスを照らしているため明るく輝いて見えます。このような星雲を散光星雲といいます。すべての星はガスの中から生まれました。水素ガスが集まってかたまりとなって中心温度が高温になると、水素がヘリウムに変わる核融合反応が起こって星が誕生していきます。オリオン大星雲は、まさに、星が誕生しているところです。



2月15日21時の星図

北
南

星図：ステラナビゲータ10/(株)アストロアーツ

シリウス

2月中旬の21時頃、南の空にひときわ明るく輝いている星が、おおいぬ座のシリウスです。明るさは-1.5等級で、星座を形作る全ての星の中で一番明るい星です。日本では「大星(おおほし)」、「青星(あおほし)」などと呼ばれています。今から5千年前の古代エジプトでは、日の出の直前にシリウスが東の空に昇ってくるのを見て、1年の始まりとしていました。シリウスは、当時、ナイル川の氾濫の時期を知らせてくれる重要な星として、暦の役目も果たしていたのです。

西 話題の星ベテルギウス

オリオン座の恒星ベテルギウスは、直径が太陽の1000倍近くある大きな星です。逆に、表面の温度は太陽の半分ほどの3000°Cですので赤く見えています。赤いということは、かなり歳をとった星で、近いうちに寿命を終えるかもしれないと言われてきました。実は、この星、昨年末から極端に暗くなってきていることが話題になっています。変光星なので明るさが変化するの自然なのですが、今までにないほど暗くなっているそうです。ひょっとしたら超新星爆発の予兆ではないかと、どきどきして見守っている天文ファンも多いようです。

かのう座を見つけよう!



かのう座は、日本(北日本を除く)では南中するときでも地平線すれすれの低空にしか見えません。全天で2番目に明るい白色の一等星ですが、低い位置にあるために大気の影響を受けて本来より暗く赤っぽく見えます。中国では、「南極老人星」、「寿老人」などと呼ばれ、この星を見つけたら長生きできるといわれています。昇ってもすぐに沈んでしまうかのう座を見つけることは、めったにない幸運と考えられたようです。今の時期には、20時~21時頃に、南の地平線もしくは水平線が見渡せて、街明かりの少ない高いところで、探してみてください。

←四日市での見え方(令和2年2月15日 20時40分)
20時40分時点でかのう座の高度は約3度です
(星図：ステラナビゲータ10/(株)アストロアーツ)

2月のガリレオ教室

〈宇宙エレベーター〉

プラネタリウムの冬の一般番組及び関連してのコズミックギャラリーでの展示、そして、2月8日(土)の宇宙塾の演題でもある「宇宙エレベーター」について、天文ボランティアがわかりやすく解説します。

〈日時〉
2月9日(日)
①11時から11時20分
②14時から14時20分
〈場所〉
5階コズミックラウンジ



★★観望会★★





《天文ボランティア主催観望会》
日時：2月1日(土)
時間：19時から20時30分
場所：博物館前市民公園
内容：月面Xを見よう

※天候不良時は中止です。
※当日は自由参加・無料です。
※きらら号は出勤しません。

《博物館主催きらら号観望会》
日時：2月22日(土)
時間：18時30分から20時
場所：博物館前市民公園
内容：金星と冬の大三角をさがそう

※天候不良時は中止です。
※当日は自由参加・無料です。

2月の月

2日  上弦
9日  満月
16日  下弦
24日  新月

編集後記

1月のガリレオ教室のテーマは「今年の星たち」でした。今年は、特別に驚くような天文現象はありませんが、特徴としては、例年見られる天文現象が良い条件で観察できることです。例えば、流星群の見られる夜の月明かりが少なかったり、部分日食の食が大きめだったり、地味ながらも充実した年となりそうです。火星の約2年2ヶ月ぶりの準大接近も楽しみです。